



### 第5戦

## SUZUKA GT 300km RACE

### 鈴鹿サーキット

予選

8月22日(土)

天候：晴れ コース状況：ドライ

真夏のSUPER GT第5戦鈴鹿ラウンドは、8月22～23日に開催。前戦・富士の結果、ポイントリーダーと同じ40点でシリーズ2位のHYPER WATER INGING GR86 GTは、今回80kgというサクセスウェイトだが、実際には50kgのウェイトを搭載し、決勝中の給油リストラクター制限を受ける。また参加条件の変更があり、リストラクター径は30.56mmから30.27mmへ狭くなり、BoP重量も+5kgの75kgとなり、最低地上高も44.0mmから46.0mmへ高くなった。

予選：24位



雲の多い晴天ながらうすすらとガスがかかったような鈴鹿は湿度が高く、気温31℃、路面温度37℃の9時45分に公式練習が始まった。しかし公式練習では珍しく2回にわたる赤旗中断があり、走行時間は10分延長されたものの車両のセッティングも決まらないまま進行した。このセッションではト部がトップと0.177秒差の6番手だったが、堤は中断の影響で1周しかできないままセッションを終えた。

15時30分からの公式予選Q1は晴れ/ドライ、気温34℃、路面温度46℃というコンディションのもとスタートした。HYPER WATER INGING GR86 GTは14台からなるB組に区分。15時48分にB組のQ1が始まると、いつものようにQ1を担当するト部和久がコースイン。タイヤを温め、残り2分となった計測2周目に1分58秒719をマークして3番手につけた。しかしこのタイムを上回る車両が次々に現れト部の順位は10番手まで下がることになった。

ト部はアタックを続けたが次のラップは1分58秒734とタイムは伸びず10番手のまま。これを新たに上回る車両があり12位に沈むこととなり、上位9台が進めるQ2へ残ることはできなかった。これで決勝レースのグリッドは24番が確定した。

23日の300kmレースは、13時30分にスタート予定。ひとつでも前の位置でゴールするためにチーム全員緒力で戦う。



HYPER WATER®





## ドライバー 堤 優威

「朝は他のチームも同じ条件かもしれませんが、セッティングもやっていないに等しいです。練習走行は最後のト部選手の攻撃で上位に行けたのでQ1は通るかなと思いましたが、周りの上げ幅に対して僕たちはタイムが全く上がりませんでした。今回は初めて履くタイヤですからロングランがどうなるのか分かりませんが、決勝レースは前だけを見て走ります。まだ何も決まっていますが、明日のスタート位置なら、たまにスタートを担当してもいいかなと思います。タイトル争いをしているチームの近くでゴールを目指します」

## ドライバー ト部 和久

「午前中のタイムからすると自分自身びっくりしました。ミスをしたというわけでもなく自分的には出し切れていたと思っていましたから。チームに申し訳ないです。朝の走行からコンディションは大きく変わったなとは思いましたが、他が上がったわりに自分たちが上がっていないという感じです。これからデータをチェックして何が悪いのか、チームとちゃんと解明したいです。鈴鹿は抜きにくいコースなので、明日はスタートに賭けたいです。ひとつでも多くのポイントを取れるよう、暑くなるでしょうが頑張ります」



## 監督 加藤 寛規

「Q1落ちは予想はしていましたが、チャンピオン争いをしている中では受け入れがたい順位です。朝の練習走行の中で若干見えてきたものもあり、ギリギリQ1突破はできるのかなとは思っていましたが、予想以上にタイムが上がりませんでした。終わってしまったものは仕方がないので、明日はひとつでも順位を上げるように頑張るしかありません。決勝をどうするかについてはこれから話をします。ひとつでも上に行かないとダメなので、チーム一丸で頑張ります」

